

2019年8月27日

ファスニングジャーナル(10面)に掲載されました

夏休み特集ワークショップ 連日開催

日本ねじ工業協会の出展ブース内で

一般社団法人日本ねじ工業協会のブースでは、夏休み特集ワークショップを連日開催。ねじづくりに工程を体験できる「紙ねんどで作ろうー自分だけのねじーねじはかせに、キミはなるー」(企画・運営：日東精工(株))および、ねじ締付け体験の「Dr. ラーセンの締付け実験教室」(運営：(株)平戸製作所)が実施された。

「紙ねんどで作ろう！自分だけのねじーねじはかせに、キミはなるー」では、紙粘土と金型(3Dプリンタにて製作)を用いて本格的なねじ作りを体験できる内容。粘土を一定寸法の丸棒(形状)にし、特製の金型に差し込んでから頭部(第1工程)を、次にリセスの十字穴(第2工程)の成形がなされ、半製品のブランクを製作。その後、

後、一對の平ダイス(ナレットローリング)にブランクをはめ込み、金型をスライドさせることでねじ部を転造加工。網の上において熱処理加工を施すなど、実際の生産工程を本格的に再現した順序で行われた。

「Dr. ラーセンの締付け実験教室」では、Dr. ラーセンを演じた平戸眞澄氏(株)平戸製作所が、写真を用いながら、緩みや破断などトルクを要因にねじ締結が事故に繋がる可能性もあると紹介。体験コーナーでは、来場者がブロックに取り付けられたねじにナットを①トルクレンチを用いて適正トルクで締付け②スパナを用いて適正トルク以上で締付けた場合の状態確認③スパナで締付けた後、トルクレンチによる適正トルクでの締付けの順で実施。平戸氏と一柳達朗氏(株)日東精工とDr. ラーセンのワークショップ

ら、緩みや破断などトルクを要因にねじ締結が事故に繋がる可能性もあると紹介。体験コーナーでは、来場者がブロックに取り付けられたねじにナットを①トルクレンチを用いて適正トルクで締付け②スパナを用いて適正トルク以上で締付けた場合の状態確認③スパナで締付けた後、トルクレンチによる適正トルクでの締付けの順で実施。平戸氏と一柳達朗氏(株)日東精工とDr. ラーセンのワークショップ

